

この紙のゴール: 先行詞が人か物かを見て、who / which の節をうしろから前の名詞へ返して読める

学び直しから始めるクラス 偏差値のめやす ~40程度 この版は主格 who / which の2つだけを見ます

気づき AとB、和訳はほぼ同じ「母の作るカレーは世界一だ」。何が違う？ (30秒考えて、となりの人と答え合わせ)

A	The curry my mother makes is the best in the world.	母の作るカレーは世界一だ。
B	My mother makes the best curry in the world.	(直訳) 母は世界一のカレーを作る。

Bは「母」の話、Aは「カレー」の話。Aの主語は The curry my mother makes という**大きな名詞のかたまり**で、日本語は「母の作る→カレー」と前から、**英語は名詞のあとから説明を足します**。ここには関係代名詞 that が隠れていて、**会話では何も置かない形がいちばんふつう**—「名詞+S+V」と並んだら省略の合図です。

整理 関係代名詞の基本の2つ

形	作り方	表すこと	例文
主格 who (人)	人 + who + V	~する人	I have a friend who can ski. スキーができる友だちがいる。
主格 which (物)	物 + which / that + V	~する物	That is the dog which bit me. あれがぼくをかんだ犬だ。

この2つが読めれば、この単元はまず十分です。読みの口ぐせは「**関係詞の節はうしろから前の名詞へ**」—who works at a zoo を見つけたら、直前の an aunt に返して「動物園で働くおば」とまとめます。書くときは**説明したい名詞を先に置き、直後に who / which**。ひとつだけ約束—**who / which を省略しないこと** (省略できる形は次の版で扱います)。

確認 () 内から正しいほうを選ぼう。 知識・技能

- (1) I have an aunt (who / which) works at a zoo as a vet.
- (2) The bus (who / which) goes to the stadium is full on game days.
- (3) We stayed at a hotel (who / which) was built over a hundred years ago.

関係代名詞の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	who	先行詞 an aunt は人で、うしろは works = 主語が欠けている。人の主格は who。
(2)	which	先行詞 The bus は物。文全体の動詞は is。
(3)	which	先行詞 a hotel は物。建物でも「人が住むから who」とはしない。

つまずき① 主格の関係代名詞を省略してしまう

省略できるのは目的格だけ。主格を省略すると、1つの文に動詞が2つ並んで壊れます。「名詞+S+V」(省略OK)と「名詞+V」(主格=省略不可)を並べて見せると直りが速くなります。

× I have a cousin plays the drums in a band. → ○ I have a cousin who plays the drums in a band.
a cousin のうしろがいきなり動詞=主格の節。主格の who は省略できない。

つまずき③ 節の中の動詞の数をまちがえる

主格の関係代名詞のうしろの動詞は、先行詞に合わせて形を決めます。直前の名詞まで戻って確かめる習慣を—先行詞と節が離れる長い文ほど起きやすい誤りです。

× I know some people who likes the singer very much. → ○ I know some people who like the singer very much.
先行詞は some people = 複数。who のうしろの動詞は like。

授業のひとつ 止まる原因は内容ではなく文のどこまでが主語が見えないことです。最初の2問は「節の終わりにスラッシュを引いてから訳す」を全員でやってください。The bus which goes to the stadium / is full. と区切れれば、あとは自分で進めます。

